

地域福祉活動論

中部学院大学人間福祉学部
教授 宮嶋 淳

地域の課題解決提案事業（アクティブ・ラーニング）

ミッション：高齢化している給食サービスを実施するボランティア団体を救え！！

現状の課題：

1. 高齢化
2. 単調なメニュー
3. 地域性（坂道・山道が多い）

ボランティア団体のデメリット（課題）を解決するための提案
並びに実現するための具体的手順・方法

1、「高齢化」の問題を改善する

- ①小中学校及びPTAへの働きかけ
- ②高校生のボランティアを頼む
- ③大学の単位にする
- ④おやじの会に相談する
- ⑤若い会員を増やす
- ⑥大学のサークルに働きかける

2、「メニュー」の単調さを克服する

- ①栄養士への働きかけ～座談会
- ②主婦からの聞き取り
- ③利用者へのアンケート
- ④インターネットや資料で調べ、相談する
- ⑤レシピ・コンテスト
- ⑥契約農家を増やす

3、「坂道・山道」を克服する

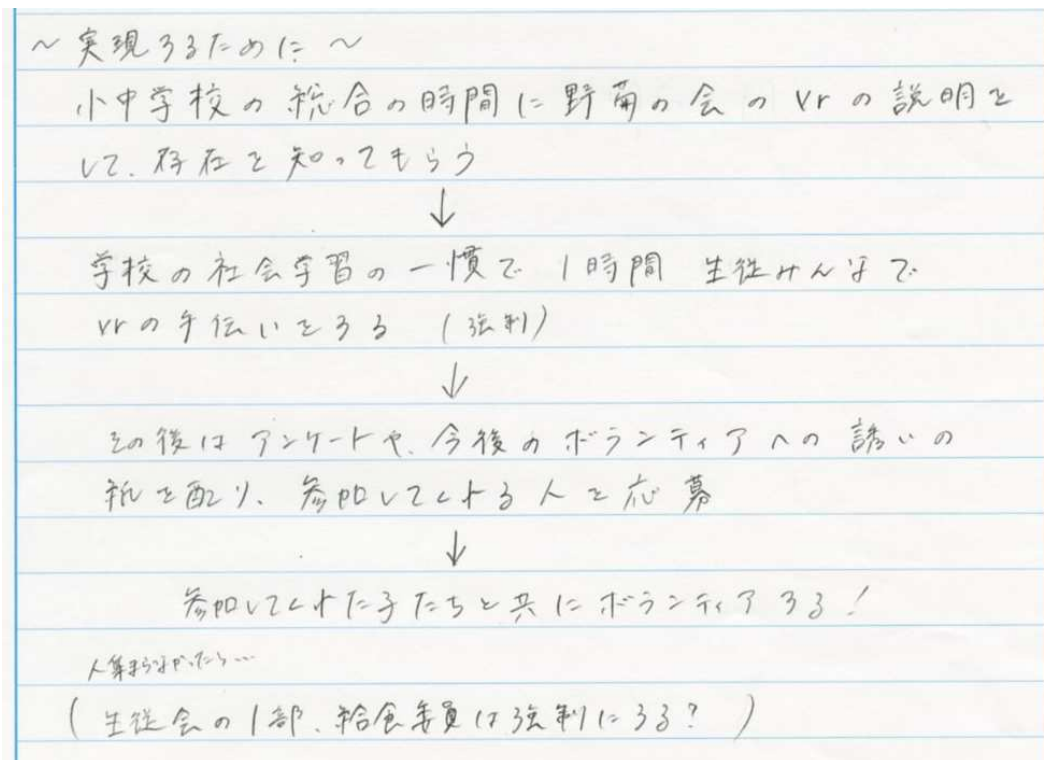
- ①電動自転車やバイク、運搬用の軽自動車
- ②学生に配達頼む
- ③公民館に集ってもらい食事会形式にする（付き添いあり）

4、「その他」取り組むべきこと

- ①役割分担を再考する
- ②行政に頼み、PRしてもらう

1、「高齢化」の問題を改善する

①小中学校及びPTAへの働きかけ



②高校生のボランティアを頼む

- チラシ配る
単純なデザイン
おまけをつける(マーカーなど)
- ポスターを貼る。
- 先生にSHRで言う。
- 自分の分の弁当をもらえる。
- 部活(運動部)の顧問の先生に協力する。
- (調理部)

③大学の単位にする

- 大学の単位にする
 - ・大学に連絡する
 - ・〃を訪問する
 - ・企画書を提出する
 - ・プロレ講義をする
 - ・地域志向科目群に入れる
- 企画書
- ・活動内容
 - ・頻度
 - ・費用
 - ・メリット
 - ・デメリットと工夫・改善

④若い会員を増やす

- 若い会員を増やすためにはどのような方法があるか
- ・効果的な宣伝
 - 〈媒体〉SNS, ブログ, ポスター (高校・中学校・大学・電車・バス)
 - 学校を通じた直接的な宣伝
- 〈内容〉・手がない野菜、野菜が分けてもらえる
 - 地元の農家の人に規格外のものを分けてもらえるよう交渉する
 - ・料理が上手になる (和食・伝統料理など)
- 興味のある人が集まったら...
- 説明会を開く → その際の昼食に実際のお弁当をだし、どのような感じが知ってもらおう。
他のボランティアとも交流を深める。
- ・手回りの友人や家族などにも知らせ、広めてもらえるよう依頼
- ▶ どのくらいの頻度が採られるのかを調査
 - 上手く回るようシフト表を作り、さらに調査
 - シフトを作って回る

⑤大学のサークルに働きかける

◎大学のサークルに働きかけるために

○大学の空きコマを調べ、その空きコマで講習会を開くよう

頼む。 水曜の午後ねど



○このために地域指向科目群の授業でその講習会の説明の宣伝を頼む

↓ 許可をもらったら...

学生に参加してもらうため

サークル活動で
野菊の会をネットに
と宣伝する

○サークルの人達でレビエを考えてもらった。

大学のイベント、祝日のイベントを使用する

○食事が楽しくできるように、食事にデザートをつける



○学生はこれらと普通の学食より安い値段で提供する

○7~8月は空いてしまう



大学生は夏休みだから「流しうどん」「バーベキュー」「すいか割り」
など企画し、積極的に学生が参加できるように促す。

○小さい子達に米をもらう ← 教育学部の子も参加できる

2、「メニュー」の単調さを克服する

①栄養士への働きかけ～座談会

過程① 栄養士に依頼する

① ↓

② 野菊の会のメンバーと栄養士で話し合っメニューを決める(山県市特産_物の様々な調理法を考える)

↓

③ 新メニューをメンバーと栄養士で作って、試食しながら話す

↓

④ 利用者にお弁当をどける

↓

⑤ 次週感想・意見を聞く

↓

⑥ 栄養士にお礼・報告をする

②主婦からの聞き取り

野菊の会に入ってる主婦に2ヶ月前に聞いて、
1ヶ月前にメニュー決定し実行
主婦の友達にきく。

④ 賢板に記入できる所をつくる

③利用者へのアンケート

利用者へのアンケート

- ① 配達する時に直接食べたいものを聞く。(会話がこぼれる)
食材
- ② レシピ作りやすいものに考えをもらって、レシピ考案メニューとして出す。
- ③ 利用者にとってどの料理がおいしかったか、満足度を聞く。
(満足度の高いメニューをまた違う月に採用)

④レシピ・コンテスト

- ・対象者：中学生以上 (山県市の学校のみ)
 - ・PR方法：学校へチラシ
ホームページ (山県市にのせもらう)
 - ・予算：印刷代 1万
 - ・商品：柿、栗、天然水
- ① 先生にお願い (各学年 5人くらい)
料理部
 - ② 写真・予算・方法を中心に選考
 - ③ 選ばれた10人
(山県市公民館)
 - ④ 担当の月を決める
(か月ごとに 1人作りに来てもらう)
※ 1年分

⑤契約農家を増やす

- ・ 西へ達する近くの農家に直接行って頼む
 - ・ チラシを作って、渡す
 - ・ 作った弁当も無料配布（契約のお礼）
- 交通費 → 1000円（ガソリン代、チラシ代）
- 地産地消 近くの農家なら顔見知りだから安心

3、「坂道・山道」を克服する

①学生に配達頼む

中学生にボランティアを頼む 飲み物、お弁当の残り 2000円（1回）
↳ 内申書がもらえるから意欲的
高校生、部活（運動部）に月1交代でボランティアを頼む。
↳ っらい練習をしないといいから意欲的にやってくれる

②公民館に集まってもらう食事会形式にする（付き添いあり）

公民館での食事会について提案します。
場所は 美山中央公民館を予約します
1月 3月 5月 9月 11月の第2土曜日のお昼に開催します
時間は 11時半から 2時半までを予定していますが
いつ来てもいい、いつ帰っても大丈夫です。
参加費は 100円です。
メニューは 肉じゃが、ほうれん草のゴマあん、漬物、みそ汁、たき込みご飯です。
ボランティアは 岐阜大学の学生さんを中心に協力してもらいます。
食事後は カスタニエラ、ダンス部、よさこい、そらぎく部による
出し物を予定しています。
お越し頂く際
移動方法は 狭い道は 学生さんと楽しくおしゃべりしながら
広い道まで来て下さい。そこから車でご迎えに行きます。
帰りも同様です。
この会を開くための費用は 自治会費によってまかなわれます。

[講師コメント]

この授業は、平成 29 年度岐阜大学医学部看護学科 1 年生を対象に実施しました。80 名の学生を 12 のグループに分け、グループごとに課題を検討しました。

グループにはリーダー、サブリーダー、記録者、発表者を設け、ブレインストーミングの原則を重視し、議論を進めました。

グループの議論の成果を発表する際には、ロールプレイの方式を取り入れ、①発表者＝地域活動の提案者、聴衆＝地域住民、あるいは②司会・進行＝ボランティア団体のリーダー、発表者＝ボランティア団体の活動についての提案者、聴衆＝ボランティア団体のメンバーとしました。

ここに掲載したアイディアは、当該課題とした地域の問題解決のみでなく、汎用性ある手がかかりになっていると考えます。

(2017. 06. 10. 宮嶋 淳)